

ペスタロッチャー・フレーベル学会 課題研究
関東地区第7回 研究発表会

— 子どもの育ちに大切なこと —

☆日本の現実①☆

* 2010年度小中学生の不登校（2011文部科学省速報値）

11万4971人

* 2008年うつ病（厚生労働省）

・ 104.1万人

* 2005年青年・成人ひきこもり（NHK 福祉ネットワーク）

160万人以上（準：140万人以上）

* 2009年ニート（厚生労働省）

63万人

*虐待（親・子）、いじめ（世界一）

☆日本の現実②☆

①A 幼稚園（神奈川県横浜市）でみる子どもたち

無表情、無気力、良い子志向、乱暴、甘え

A 幼稚園（神奈川県横浜市）でみる保護者たち

教育・しつけに無関心、責任転換、派閥、孤立、共働き

遊びの変化（子ども）例：ごっこ遊びでは、ペットの役をやりたがる

子（理由：かわいがってもらいたい）

遊びの制限（幼稚園）例：限られた遊びしかやらせない

②マイケル・ジーレンガー（カルフォルニア大学）ひきこもりの国（光文社）

愛着（アタッチメント）の不足（人への信頼感は母への信頼）

登校拒否（受け止めてくれる人・場所がない）

日本の若者の無力感

③石田勝正（国立京都病院院長）

虐待の増加（1990年）大阪 虐待ホットライン

高度成長化にともない誤った育児法

(抱きぐせをつけるな、甘やかすな、粉ミルクがよい、0才児保育施設を増やせ、女性の自立を促した雇用の促進など)

☆子どもの育ちに大切なこと☆

ー基盤の大切さー

①ロバート・エムディ (コロラド大学健康科学センター)

非行・犯罪に走る子の共通点 (六ヶ月の時、母が見守ってなかった)

母親を見失ったという不安

②マイケル・ジーレンガー (カルフォルニア大学) ひきこもりの国 (光文社)

愛着 (アタッチメント) の不足 (人への信頼感は母への信頼)

登校拒否 (学校が嫌でなく受け止めてくれる人・場所がない)

日本の若者の無力感

③鍵小野美和 (岐阜大学)

乳幼児期の母親への記憶 (日中の大学生対象に調査)

母のにおい、声 (旺盛) → 夢、希望、感動、意欲、創造

中国の学生が多く、日本の学生は少ない (母性が弱っている)

④木原雅子（京都大学）

親子（教師）の会話がなくなっている生徒（高校生）

万引き4倍、自傷行為（リストカットなど）3倍

⑤平井信義（児童学研究会会長）

考える力・創造力（いろいろな事を考えながら遊ぶ）

一人遊び（親が見守る大切さ）

*前回の研究発表会では、コルチャック氏も愛は大切とのお話がありました。

以上、子どもが育つ上で愛の基盤を固く作る事が必要と考えている。

ー遊びの大切さー

①アンリ・ワロン（1800年代・パリ大学）

喜びを共有し合う/ 悲しみも共有し合える

いじめっ子が欠如している（喜び/悲しみの経験）

②佐々木正美（児童精神科医）

ルールを作る/役割を作り、責任を背負う

仲間と分かち合う（協力・共感）

友達遊び不足は、ひきこもりの近道

ひどいいじめは、相手の悲しみを想像できないから

③平井信義（児童学研究会会長）

考える力・創造力（いろいろな事を考えながら遊ぶ）

一人遊び（親が見守る大切さ）

遊び不足（登校拒否、家庭内暴力、ノイローゼ）

④遊びに力を入れている幼稚園（神奈川県茅ヶ崎市、相模原市）

遊びを十分取り入れる（少人数制）

人とのかかわり（親）

以上、私自身、幼稚園教諭の経験から子どもの遊ぶ姿を見ていると一生懸命ひとつ上の難しい事にチャレンジしようとしている姿がある。そして、ひとつの遊びが終わると満足し、新しい遊びを始める。遊びは考える力・創造力を育てる。また遊びを通じて、人とのかかわりをもち、ルール作りや責任をもって行う。更に身体を動かし、エネルギーを発散させる事ができる。平井信義氏は、遊びは大切であり、親が無駄と考えたり、遊ぶ時間をうばうと思春期になって突然、登校拒否、家庭内暴力、ノイローゼになると述べられている。

私自身、子どもの育ちを考えた時に親からの愛情たくさん受け、地域の様々な触れ合いの中、のびのびと適した環境の中にて遊ぶ事が大切と考える。今、日本は教育の曲がり角にきており、子どもの育ちを見直す時期にきていると思われる。ひきこもり、うつ病、いじめなど様々な問題の中、ひとりの教師として今、何が必要か深く考えていきたい。